

オリンピック・パラリンピックと人権・東京都シンポジウム 実施内容

【日時・場所】 平成29年2月1日(水) 14:00~16:30 都庁5階大会議場

【来場者】 約500名(一般都民(300名)、各局・区市町村(170名)、組織委員会(30名))

資料5

- 【目的】
- 「オリンピック・パラリンピックと人権」に焦点をあてたシンポジウムを、東京都として初めて開催する。
 - ロンドン・リオ大会の関係者、国内パラリンピアンを招聘し、過去大会での取組事例や東京大会に向けた提言を得ることにより、今後の施策展開の参考とする。
 - 一般都民、行政、企業など関係者だけでなく、国内外に幅広く発信を行うことにより人権尊重都市・東京をアピールし、人権のレガシー構築を着実に進める。

プログラム	時間	分野	出演者	ねらい・講演内容等
14:00 開会	5分	司会		
14:02 オープニング メッセージ	10分	東京都知事 (主催者代表)	小池百合子 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権に配慮した大会」を謳うオリンピックズム遵守の姿勢を開催都市として示す。 ・ オリンピック・パラリンピックを契機としたダイバーシティ・東京の実現、そして多様性を認め合うという人権レガシーの構築に向け、人権施策を前進させる決意。
14:15 講演Ⅰ	20分	ロンドン (2012年大会)	駐日英国大使館 首席公使 デイヴィッド エリス 氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年大会の際に取組んだ人権施策及びレガシー計画 ・大会から4年が経過した、現在のロンドンの姿、実際に市民に残されたソフトのレガシーについて
14:35 講演Ⅱ	20分	リオ (2016年大会)	駐日ブラジル連邦共和国 大使館 首席公使 サルキスJ.B.サルキス 氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・今夏のリオ大会で実施した人権施策、教育施策と、それが都市にもたらしたもの ・IOCやIPCとのやり取りで感じた人権の側面での課題 ・大会会場におけるバリアフリー施策、合理的配慮
14:55 講演Ⅲ	20分	パラリンピアン (アスリート)	マセソン 美季 氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・パラ・アスリート視点で感じている、東京大会における人権面での課題 ・日本財団パラサポセンターの取組から感じる人権理念の普及に大切なこと ・2016年6月、国連人権理事会「スポーツとオリンピック精神 - 障害を持つ人々を含むすべての人々の人権のために」に参加した際に感じた世界が見る東京の姿。
15:15 (休憩・場面転換)	15分			
15:30 パネル ディスカッション (進行+ 講演者Ⅰ~Ⅲ)	60分	有識者(人権分 野)	(公財)人権教育啓発推進 センター理事長 横田 洋三 氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い人権分野の見識、国連など国際的な経験、組織委員会「持続可能性WG」座長としての取組などを踏まえたメッセージ発信 (ディスカッションテーマ) 1. オリパラ開催にあたって:「バリア」とは何か(ハード・ソフト両面) 2. 大会を契機とする変化: マインドセットを変えていくために有効なことは何か。 3. 東京に期待すること:オリパラを契機に、ポジティブな人権レガシーを残すために大切なことは何か。
16:30				

(シンポジウム成果のフィードバックの取組)

- ▽ 開催後のニュースリリースの配信(国内外)による発信、YouTubeでの動画配信、ツイッターなどSNS発信
- ▽ シンポジウム内容の周知(HP、オリパラ準備会議など)。提案・意見について、各局・組織委員会・区市町村など、関係所管と共有し、今後の施策について協議。